

平成 30 年度

川崎市立中学校 学習診断テスト

国語科

誤答分析と学習指導上の考察

川崎市教育委員会
川崎市立中学校長会
国語科調査委員会

国語

I 作成方針と構成

1. 作問にあたって

今年度も「調査の目的」に即し、ペーパーテストで問える範囲で国語科学習の全領域にわたって出題するよう努めた。作問にあたっては、中学校学習指導要領を踏まえ、「平成 29 年度川崎市立中学校学習診断テスト 誤答分析と学習指導上の考察」で挙げられた課題や全国学力・学習状況調査問題等の出題のねらいを考慮し、問題を作成した。また、国語科では昨年度同様、漢字や文法事項、語句の知識や仮名遣い、文章の内容把握等を「知識・技能」に、読み取ったことを整理すること、文章中の表現から人物の心情を想像すること等を「思考・判断・表現」に分類した。

全国学力・学習状況調査は、『主として「知識」に関する問題と、主として「活用」に関する問題の二種類からなる』とある。

①主として「知識」に関する問題は、

- a 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容
- b 実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能などの内容

②主として「活用」に関する問題は、

- a 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力にかかわる内容
- b 様々な問題解決のための構想を立て、実践し評価・改善する力にかかわる内容

となっている。本市診断テストの作問にあたっては、問題作成の指針として意識した。「知識・技能」「思考・判断・表現」の分類についても、この内容を参考にした。

出題範囲・内容については、各学年とも 10 月末までに学習する内容を主体として、漢字の読み・書き、語句の知識や文法、書写、韻文（詩・短歌・俳句）、文学的な文章（小説）、説明的な文章（説明文）、古典（古文）から出題した。ただし、1 学年の古典、2・3 学年の書写については出題しなかった。また、全学年でそれぞれの履修内容に照らして聞き取りテストを実施した。

平成 25 年度から実施されている、「読む力」を問う問題として、字数制限・一文を条件とした記述式問題を、文学的な文章および説明的な文章から出題する形式を、今年度も継続した。1 学年は、文学的な文章から、書き終わりを指定しキーワードを条件に加え、出題した。2 学年は、文学的な文章から、書き出しと書き終わりを指定しキーワードを条件としてに加え、出題した。3 学年は、文学的な文章からは、書き出しと書き終わりを指定しキーワードを条件としてに加え、説明的な文章からは、キーワードを条件としてに加え、それぞれ出題した。

また、今年度も 2 学年の問題において「書く力」を問う問題として、提示された表の内容を読み取り、自分の立場を明確にして考えを述べる記述式の問題を出題した。

なお、文学的な文章と説明的な文章の選定にあたっては、文字数や使用されている語句、続きを読みたくなるような作品であること等、複数の選定基準を設定して、多数の候補作品の中から吟味した上で出題作品を決定した。

2. 出題のねらい

	1 年	2 年	3 年
問一	<p>●校内放送の内容を的確に聞き取ることができるか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 放送の内容を的確に聞き取ることができるか。 放送の仕方でのよい点をとらえることができるか。 聞いた内容を資料に生かすことができるか。 	<p>●話し合いの内容を的確に聞き取ることができるか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 会話の内容を的確に聞き取ることができるか。 話題と資料との関係をとらえて聞くことができるか。 	<p>●スピーチと質疑応答の内容を的確に聞き取ることができるか。</p> <ul style="list-style-type: none"> スピーチと質疑応答の内容を的確に聞き取ることができるか。 スピーチの仕方でのよい点をとらえることができるか。 話題と資料との関係をとらえて聞くことができるか。
問二	<p>●言語事項に関する基礎的な知識が身に付いているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 既習の漢字について読字、書字ができるか。 言葉の単位が理解できるか。 指示語が理解できるか。 漢字の部首が理解できるか。 	<p>●言語事項に関する基礎的な知識が身に付いているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 既習の漢字について読字、書字ができるか。 自立語の区別ができるか。 敬語の使い方が理解できるか。 対義語が理解できるか。 	<p>●言語事項に関する基礎的な知識が身に付いているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 既習の漢字について読字、書字ができるか。 同訓異字が理解できるか。 故事成語が理解できるか。 助動詞の識別ができるか。
問三	<p>●書写における楷書の書き方が身に付いているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 字形の整え方について理解しているか。 楷書の書き方を適切に理解しているか。 	<p>●短歌の内容を理解し、的確に鑑賞することができるか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 内容理解と的確な鑑賞ができるか。 表現技法が理解できるか。 	<p>●俳句の内容を理解し、的確に鑑賞することができるか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 内容理解と的確な鑑賞ができるか。 季語、季節を理解できるか。 表現上の特色が理解できるか。
問四	<p>●詩の内容を理解し、的確に鑑賞することができるか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 内容の理解と的確な鑑賞ができるか。 作者の思いを想像できるか。 表現上の特色が理解できるか。 詩中の語句の使い方について理解できるか。 	<p>●文学的な文章の読解ができるか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 登場人物の心情を読み取ることができるか。 内容の理解、把握ができるか。 文章を的確に読み取り、条件を満たして記述することができるか。 人物像を的確に把握できるか。 	<p>●文学的な文章の読解ができるか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 内容の理解、把握ができるか。 文章中の語句の使い方について理解できるか。 登場人物の心情を読み取ることができるか。 文章の表現の特徴を把握できるか。 文章を的確に読み取り、条件を満たして記述することができるか。
問五	<p>●文学的な文章の読解ができるか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 内容の理解、把握ができるか。 登場人物の心情を読み取ることができるか。 文章中での語句の使い方について理解できるか。 文章を的確に読み取り、条件を満たして記述することができるか。 文章の表現の特徴を把握できるか。 	<p>●説明的な文章の読解ができるか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 文のつながりを理解することができるか。 内容の理解、把握ができるか。 内容から、図表を正確にとらえることができるか。 	<p>●論理的文章の読解ができるか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 内容の理解、把握ができるか。 内容から、図表を正確にとらえることができるか。 接続詞を理解し、文章相互の関係をとらえることができるか。 文章を的確に読み取り、条件を満たして記述することができるか。
問六	<p>●説明的な文章の読解ができるか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 文のつながりを理解することができるか。 接続語を理解し、文章相互の関係をとらえることができるか。 内容の理解、把握ができるか。 段落相互の関係が理解できるか。 	<p>●古典の読解ができるか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 歴史的かなづかいを正しく理解しているか。 主語の把握ができるか。 地の文と会話文を識別できるか。 内容の理解、把握ができるか。 	<p>●古典の読解ができるか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 地の文と会話文を識別できるか。 歴史的かなづかいを正しく理解しているか。 内容の理解、把握ができるか。 主語の把握ができるか。
問七		<p>●立場を明確にし、自分の考えを記述することができるか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 表の内容を読みとり、説明することができるか。 自分の考えとその理由を説明できるか。 	

Ⅱ 第1学年の結果と分析

1. 小問別の問題内容と結果正答率【国語 第1学年】

問題番号		趣旨		話・聞	書	読	言	問題の内容	出題のねらい	正答率(%)	無答率
大問	小問	知・技	思・判・表								
1	(ア)1	○	◎					①聞き取り	放送の内容を的確に聞き取ることができるか。	77	0
	(ア)2	○	◎						放送の内容を的確に聞き取ることができるか。	68	1
	(ア)3	○	◎						放送の内容を的確に聞き取ることができるか。	69	1
	(イ)	○	◎						放送の仕方により点をとることができるか。	86	0
	(ウ)	○	◎						聞いた内容を資料に生かすことができるか。	95	1
2	(ア)1	○					◎	②漢字の読み	既習の漢字について、正しく音読みできるか。	96	1
	(ア)2	○					◎		既習の漢字について、正しく音読みできるか。	97	0
	(ア)3	○					◎		既習の漢字について、正しく音読みできるか。	49	16
	(ア)4	○					◎		既習の漢字について、正しく訓読みできるか。	62	8
	(ア)5	○					◎		既習の漢字について、正しく訓読みできるか。	86	4
	(イ)1	○					◎	③漢字の書き	既習の漢字について、正しく書くことができるか。	43	12
	(イ)2	○					◎		既習の漢字について、正しく書くことができるか。	42	18
	(イ)3	○					◎		既習の漢字について、正しく書くことができるか。	54	18
	(イ)4	○					◎		既習の漢字について、正しく書くことができるか。	57	24
	(イ)5	○					◎		既習の漢字について、正しく書くことができるか。	71	18
	(ウ)	○					◎	④言葉に関する知識	言葉の単位が理解できるか。	87	2
	(エ)	○					◎		指示語が理解できるか。	96	0
	(オ)	○					◎		漢字の部首が理解できるか。	74	15
3	(ア)	○					◎	⑤書写に関する知識	字形の整え方について理解しているか。	70	0
	(イ)	○					◎		楷書の書き方を適切に理解しているか。	83	0
4	(ア)	○					◎	⑤詩の読み取り	内容の理解と的確な鑑賞ができるか。	51	0
	(イ)	○					◎		内容の理解と的確な鑑賞ができるか。	59	0
	(ウ)	○					◎		内容の理解と的確な鑑賞ができるか。	79	0
	(エ)	○					◎		作者の思いを想像できるか。	81	2
	(オ)Ⅰ	○					◎		表現上の特色が理解できるか。	42	3
	(オ)Ⅱ	○					◎		詩中の語句の使い方について理解できるか。	55	10
	(オ)Ⅲ	○					◎		詩中の語句の使い方について理解できるか。	39	12
5	(ア)	○					◎	⑥文学的な文章の読み取り	登場人物の心情を読み取ることができるか。	83	1
	(イ)	○					◎		登場人物の心情を読み取ることができるか。	94	1
	(ウ)	○					◎		内容の理解、把握ができるか。	76	1
	(エ)	○					◎		文章中での語句の使い方について理解できるか。	89	1
	(オ)	○					◎		登場人物の心情を読み取ることができるか。	86	1
	(カ)	○					◎		内容の理解・把握ができるか。	32	1
	(キ)	○					◎		文章を的確に読み取り、条件を満たして記述することができるか。	21	24
	(ク)	○					◎		文章の表現の特徴を把握できるか。	85	1
6	(ア)	○					◎	⑦説明的な文章の読み取り	文のつながりを理解することができるか。	36	3
	(イ)	○					◎		接続語を理解し、文章相互の関係をとることができるか。	36	1
	(ウ)	○					◎		内容の理解・把握ができるか。	26	2
	(エ)	○					◎		内容の理解・把握ができるか。	52	10
	(オ)	○					◎		内容の理解・把握ができるか。	48	4
	(カ)	○					◎		内容の理解・把握ができるか。	63	5
	(キ)A	○					◎		内容の理解・把握ができるか。	60	22
	(キ)B	○					◎		内容の理解・把握ができるか。	54	28
	(ク)	○					◎		段落相互の関係が理解できるか。	44	4

◎…主たる観点

平均正答率 (%)		
知識・技能		71.1
思考・判断・表現		60.5

2. 主な誤答と分析【国語 第1学年】

大問	小問	正答	正答率	無答率	主な誤答	(%)	授業改善への手だて		
1	(ア)	1 ×	77	0	○	23	<p>今回は「校内放送」を正確に聞き取ることができるかをテーマとするものであった。昨年度と比較し、10%以上も平均正答率が低かった。</p> <p>小問アでは、放送の内容の細かい部分を問う問題であったが、正答率が低かった。小問イ・ウの正答率の高さと併せて考えると、大まかな流れは捉えていても、細かい数値を聞き取れていないと考えられる。実生活でも、待ち合わせ時間等細かい情報を聞き取る必要がある。</p> <p>話の要点はもちろんのこと、5W1Hに特に注意を払い、メモを取ることを指導していくことが必要である。 (平均正答率 79.0%)</p>		
		2 ×	68	1	○ 表記の誤り	30 1			
		3 ○	69	1	×	30			
	(イ)	2	86	0	3 4 表記の誤り	11 2 1			
	(ウ)	3	95	1	2 1 4	2 1 1			
2	(ア)	1 ちえん	96	1	ちにん えんちよう そうえん など	1 1 1	<p>正答率が高かった小問ア1「遅延」、2「貴重」は実生活で目にすることが多い言葉であり、5「迫る」は診断テスト直前に新しく学んだ漢字である。一方、3「しゃそう」、4「しずく」は比較的正答率が低い。</p> <p>このことから、学んだ直後は覚えていても、定着するためには継続した指導が必要なことや、実生活で用いられる語句については読むことができるが、小説などに出てくる語句は読めない傾向にあることが見て取れる。語彙の学習では、日常から継続した指導や文章に触れる機会を増やす指導が必要である。 (平均正答率 78.0%)</p>		
		2 きちよう	97	0	じゅよう いじよう きしよう	1 1 1			
		3 しゃそう	49	16	しゃまど くるままど しゃどう など	13 5 17			
		4 しずく	62	8	てき つぶ したたり など	16 10 4			
		5 せま(る)	86	4	せまる く とま など	3 3 4			
	(イ)	1 洗剤	43	12	洗済 洗のみ 表記の誤り	24 7 14			
		2 腹筋	42	18	復節 腹筋 表記の誤り	6 6 28			
		3 尊敬	54	18	尊のみ 存敬 表記の誤り	5 4 19			
		4 悩(ます)	57	24	悩 表記の誤り	5 14			
		5 溶(ける)	71	18	摘 解 浴、表記の誤りなど	1 1 9			
	(ウ)	3	87	2	4 2 表記の誤り	2 1 8			
	(エ)	4	96	0	2 1 3	2 1 1			
	(オ)	くさかんむり(くさ)	74	15	くち ごんべん きへん、にんべん など	3 2 6			
	3	(ア)	1	70	0	3 4 2		11 10 9	<p>書写は、今年度は硬筆に関する設問であった。正答率は高く、引き続き授業中の活動を通して、楷書や行書の特徴、字形の整え方を指導していくことが必要である。 (平均正答率 76.5%)</p>
		(イ)	4	83	0	2 3 1		10 4 3	

大問	小問	正答	正答率	無答率	主な誤答	(%)	授業改善への手だて	
4	(ア)	2	51	0	3 1 4	28 11 10	各連で「畑のすみ～/大根一本」と反復することで区切りとし、場面や様子の変化を味わうことができる詩であった。 全体の正答率は昨年度と同等であったが、小問オの表現上の特色や詩中の語句の使い方に関する設問の正答率が低かった。 授業では、詩全体の雰囲気を感じ取るだけではなく、詩の中の語句に着目し、比喻表現や擬音語・擬態語、助詞等にも注意して、作者の思いや主題に迫るようにしていくことが必要である。 (平均正答率 58.0%)	
	(イ)	3	59	0	4 1 2	17 12 12		
	(ウ)	1	79	0	2 3 4	15 3 3		
	(エ)	4	81	2	2 3 1	12 3 2		
	(オ)	I	畑のすみ	42	3	大根一本 詩の形式 すみから、キッチン など		47 4 4
		II	土まで笑う	55	10	畑のすみに 口を開いて、生きている など 今朝もまた、身をかかめ など		8 10 17
		III	びっしり	39	12	大根一本 畑のすみ 希望の口 など		20 13 16
5	(ア)	3	83	1	1 2 4	12 3 1	主人公が部活動との関わり方で葛藤する姿が題材であり、中学校1年生にとって共感しやすく、昨年度と同様、高い正答率であった。 登場人物の心情を問う小問ア、イ、オの正答率が高かった一方、言葉を手掛かりに内容を把握する小問カ、条件記述問題の小問キの正答率が低かった。また、小問キの無答率が約4分の1と高く、課題を残した。 今後の授業では、キーワードを用いながら文章を要約したり、登場人物の考え方について自分なりの考えを持ち表現していきたりする場面を設定していくことが求められる。 (平均正答率 70.8%)	
	(イ)	2	94	1	3 1	4 1		
	(ウ)	4	76	1	1 2 3	13 6 4		
	(エ)	1	89	1	3 4 2	5 3 2		
	(オ)	3	86	1	1 2 4	10 2 1		
	(カ)	1	32	1	4 2 3	54 9 4		
	(キ)	ぼくが転校してこなければ、小島は補欠にならなかったと思う		21	24	B C(無答以外)		4 51
	(ク)	4	85	1	2 3 1	9 4 1		

大問	小問	正答	正答率	無答率	主な誤答 (%)	授業改善への手だて	
6	(ア)	C	36	3	d 29 b 21 a 11	<p>「書く」という国語の核をなすテーマについての説明的な文章であった。正答率の低い小問ア、イ、エは、接続する語句に注目しながら文のつながりや段落相互の関係を捉えているかを問う設問であった。また、特に正答率の低かった小問ウは、筆者の意見の根拠を読み取る問題であった。今後の授業では、接続する語句やキーセンテンスに注目しながら、段落を整理したうえで要旨を捉える指導をしていくことが必要である。</p> <p>また、5の文学的な文章に比べると著しく正答率が低い。これは、毎年変わらない結果となっている。年代の近い登場人物に感情移入しやすい文学的な文章に比べ、言葉が難しくなじみの薄いテーマが主題の説明的な文章に対する苦手意識があると考えられる。それを払拭するためには、授業において一つ一つの言葉を大切に理解しながら読み進めることの必要性を説くことや、社会科学や自然科学を含めた様々な分野の説明的な文章を数多く読ませていく指導が必要である。</p> <p>(平均正答率 46.6%)</p>	
	(イ)	2	36	1	3 38 1 17 4 8		
	(ウ)	1	26	2	4 38 2 23 3 11		
	(エ)	いざ自 ~ う現象	52	10	すでに～います 9 いざ自～せない 7 いざ自～の現象 など 22		
	(オ)	3	48	4	2 27 1 19 4 2		
	(カ)	2	63	5	1 22 3 8 4 2		
	(キ)	A	無責任な言葉	60	22		読めればいい 3 ひっきりなし 2 ワープロとか など 13
		B	全身体的表現	54	28		丹念な手仕事 5 書字に伴う美 3 漢字のかたち など 10
(ク)	4	44	4	3 23 1 15 2 12			

Ⅲ 第2学年の結果と分析

1. 小問別の問題内容と結果正答率【国語 第2学年】

問題番号		趣旨		話・聞	書	読	言	問題の内容	出題のねらい	正答率(%)	無答率
大問	小問	知・技	思・判・表								
1	(ア)1	○	◎					①聞き取り	会話の内容を的確に聞き取ることができるか。	39	1
	(ア)2	○	◎						会話の内容を的確に聞き取ることができるか。	94	1
	(ア)3	○	◎						会話の内容を的確に聞き取ることができるか。	91	1
	(イ)		◎						会話の内容を的確に聞き取ることができるか。	85	1
	(ウ)		◎						話題と資料との関係をとらえて聞くことができるか。	64	2
2	(ア)1	○					◎	②漢字の読み	既習の漢字について、正しく音読みできるか。	49	12
	(ア)2	○					◎		既習の漢字について、正しく音読みできるか。	81	7
	(ア)3	○					◎		既習の漢字について、正しく音読みできるか。	35	14
	(ア)4	○					◎		既習の漢字について、正しく訓読みできるか。	86	4
	(ア)5	○					◎		既習の漢字について、正しく訓読みできるか。	77	6
	(イ)1	○					◎	③漢字の書き	既習の漢字について、正しく書くことができるか。	39	30
	(イ)2	○					◎		既習の漢字について、正しく書くことができるか。	36	30
	(イ)3	○					◎		既習の漢字について、正しく書くことができるか。	9	64
	(イ)4	○					◎		既習の漢字について、正しく書くことができるか。	15	59
	(イ)5	○					◎		既習の漢字について、正しく書くことができるか。	22	64
	(ウ)	○					◎	④言葉に関する知識	自立語の区別ができるか。	59	1
	(エ)	○					◎		敬語の使い方が理解できるか。	55	1
	(オ)	○					◎		対義語が理解できるか。	70	1
3	(ア)A	○					◎	⑤短歌の鑑賞	内容理解と的確な鑑賞ができるか。	87	0
	(ア)B	○					◎		内容理解と的確な鑑賞ができるか。	87	0
	(ア)C	○					◎		内容理解と的確な鑑賞ができるか。	86	0
	(イ)	○					◎		内容理解と的確な鑑賞ができるか。	58	19
	(ウ)	○					◎		表現技法が理解できるか。	45	4
	(エ)	○					◎		内容理解と的確な鑑賞ができるか。	81	1
4	(ア)	○					◎	⑥文学的な文章の読み取り	登場人物の心情を読み取ることができるか。	44	1
	(イ)	○					◎		登場人物の心情を読み取ることができるか。	77	1
	(ウ)	○					◎		内容の理解・把握ができるか。	64	1
	(エ)	○					◎		文章を的確に読み取り、条件を満たして記述することができるか。	45	22
	(オ)	○					◎		登場人物の心情を読み取ることができるか。	37	1
	(カ)	○					◎		登場人物の心情を読み取ることができるか。	83	1
	(キ)	○					◎		登場人物の心情を読み取ることができるか。	77	1
	(ク)	○					◎		人物像を的確に把握できるか。	56	2
5	(ア)	○					◎	⑦説明的な文章の読み取り	文のつながりを理解することができるか。	60	4
	(イ)	○					◎		内容の理解・把握ができるか。	49	2
	(ウ)	○					◎		内容の理解・把握ができるか。	56	3
	(エ)	○					◎		内容の理解・把握ができるか。	67	3
	(オ)	○					◎		内容の理解・把握ができるか。	26	4
	(カ)	○					◎		内容から、図表を正確にとらえることができるか。	37	6
	(キ)I	○					◎		内容の理解・把握ができるか。	62	30
	(キ)II	○					◎		内容の理解・把握ができるか。	39	36
6	(ア)	○					◎	⑧古典の読解	歴史的かなづかいを正しく理解しているか。	75	9
	(イ)	○					◎		主語の把握ができるか。	38	6
	(ウ)	○					◎		地の文と会話文を識別できるか。	16	29
	(エ)	○					◎		内容の理解・把握ができるか。	38	8
	(オ)	○					◎		内容の理解・把握ができるか。	35	10
7		○					◎	⑨記述式問題	立場を明確にし、自分の考えを記述することができるか。	33	32

◎…主たる観点

平均正答率(%)		
知識・技能		52.2
思考・判断・表現		58.3

2. 主な誤答と分析【国語 第2学年】

大問	小問	正答	正答率	無答率	主な誤答	(%)	授業改善への手だて		
1	(ア)	1	×	39	1	○ 表記の誤り	59 1	大問1は、「校外学習の班別行動計画について」の話し合いの内容を的確に聞き取る問題であった。小問アの1は、行動計画の「順路」の正誤を判断するものであったが、正答率が大変低かった。また、小問ウは、会話の内容と資料のデータを照らし合わせて、合致するものを選ぶものであったが、正答率は決して高いとは言えない。 まず、話の筋道を順序立てて聞き取ることと、話の内容をより具体的に想像しながら聞き取る力が求められる。聞き取った内容を的確に図示してみるなどの学習活動の機会が必要である。 (平均正答率 69.0%)	
		2	○	94	1	×	4 1		
		3	×	91	1	○ 表記の誤り	6 1		
	(イ)	3		85	1	2 4 1	6 5 2		
	(ウ)	3		64	2	1 2 4	23 9 1		
2	(ア)	1	れんか	49	12	けんか こうか けいか	22 4 3	大問2では、言語に関する基礎的な知識が身に付いているかが問われた。小問アは、既習の漢字についての読字だが、「廉価」および「吐露」の誤読は多い。「廉価」「吐露」とも、文学的文章などの中で使用される、いわゆる書き言葉であることから、誤答が多かったと思われる。日頃からの学習活動において語彙に興味関心をいなく、授業づくりが求められる。また、授業の中で習慣的に辞書を活用するなどして、語彙を増やしていくことが求められる。 (平均正答率 65.6%)	
		2	のうたん	81	7	のうえん こくえん、ぼくじゅう、など	6 1		
		3	とろ	35	14	ばくろ おうろ とうろ	25 6 2		
		4	くだ(く)	86	4	いだ みが たた、あば、のぞ、など	2 2 1		
		5	ひた(す)	77	6	つか おか さ	6 5 2		
	(イ)	1	訂正	39	30	提正 証正 丁正	5 5 3		小問イは、既習の漢字についての書字だが、昨年同様に正答率が低く、無答率の高さも目立った。 全ての漢字が正答率が4割にも満たず、3の「執念」は正答率が1割にも満たない結果となった。 この結果は、学習はしてもそれが定着していないことを物語っており、1度だけでなく繰り返し学習したり、意識的に漢字を書く機会を増やしたり、学習した漢字を活用する中で定着を図っていく必要がある。漢字を身に付けることは語彙の量と質の向上につながり、それは言葉を使う思考や対話等にも影響を及ぼすことが考えられる。系統的、継続的な指導が求められる。 (平均正答率 24.2%)
		2	拒否	36	30	許否 表記の誤り 巨否	9 6 2		
		3	執念	9	64	○念 ○年 ○然	11 6 2		
		4	赴(く)	15	59	趣 表記の誤り、主 面、越	12 3 2		
		5	潰(れる)	22	64	表記の誤り 潰 壊、遺、没、崩、など	3 2 1		
	(ウ)	1		59	1	4 2 3	27 10 4		小問ウは、品詞の分類をして「連体詞」を選ぶ問題である。小問エは、敬語の正しい尊敬語を選ぶ問題、小問オは、対義語が分かっているか、熟語の意味や構成が分かっているかを問う問題である。 文法や敬語は、国語の授業でも、日常での活用を意識させながら学習することが大切であり、授業外でも継続的にふれることで定着させていく必要がある。 (平均正答率 61.3%)
	(エ)	4		55	1	3 2 1	26 9 9		
	(オ)	2		70	1	4 1 3	13 10 6		

大問	小問	正答		正答率	無答率	主な誤答 (%)		授業改善への手だて
3	(ア)	A	1	87	0	4 3 2	7 4 2	<p>大問3は、短歌の内容を理解し、的確に鑑賞する能力が問われた。その中でも、どのような短歌なのかを読み取る小問アの正答率は高かった。中学生を題材にした短歌ということもあり、共感しやすかったのだと思われる。</p> <p>一方、小問イ、ウに関しては、他と比べると正答率が低かった。「対比」と「体言止め」を問う問題であった。短歌をつくる（詠む）際にも、短歌という形式を生かすことができる、ある程度の表現技法等を知っておく必要がある。詩歌の内容の読み取りにおいても、それぞれの言葉、表現の意味や効果等を考えられるような声かけやアドバイスを意図的にしていく必要がある。 (平均正答率 74.0%)</p>
		B	2	87	0	4 3 1	7 4 2	
		C	4	86	0	3 2 1	6 4 3	
	(イ)	対比	58	19	紹介 短歌 表現		12 5 3	
	(ウ)	3	45	4	2 4 5	29 13 4		
	(エ)	3	81	1	1 4 2	6 6 2		
4	(ア)	2	44	1	4 1 3	50 3 1	<p>大問4は、昨年同様、中学校の部活動を舞台とした物語であった。小問ア、イ、オ、カ、キは登場人物の心情が問われた。小問ア、オは、他と比べると正答率が低かった。登場人物が多いので、どの会話が誰の発した言葉なのかはっきりと分かれば、正答に導けたのではないかと思われる。また、会話と会話のつながりも意識して読むことも大切である。</p> <p>小問エは、条件を満たして記述する力を問うものである。正答率は45%となり、最近5年間で最も高かった。ただ、条件を満たしていないCの生徒が30%といまだ多く、また無答率も22%と高い。文を書くことへの苦手意識を払拭させるため、日頃から文章を書く機会をもたせる指導を継続したい。授業を展開する上で「書くこと」を指導する単元を適切に設定していく必要がある。さらに、登場人物の人物像を、一文で書き表すようなことを、まとめの活動に取り入れてみることも考えられる。 (平均正答率 60.3%)</p>	
	(イ)	4	77	1	3 1 2	12 5 5		
	(ウ)	1	64	1	2 3 4	17 16 2		
	(エ)	仲良し四人組で最後を飾るのではなく、真歩をリレーメンバーから外して走る	45	22	B C(無答以外)			3 30
	(オ)	2	37	1	3 1 4	43 11 8		
	(カ)	2	83	1	3 1 4	11 3 1		
	(キ)	3	77	1	4 1 2	15 4 3		
	(ク)	4	56	2	3 2 1	21 12 9		

大問	小問	正答	正答率	無答率	主な誤答	(%)	授業改善への手だて	
5	(ア)	b	60	4	a c d	13 11 9	大問5は、説明的な文章である。文学的な文章の読み取りと比較して、正答率は約10ポイント低い。この文章は、時代背景も昭和から現代までの内容になっており、生徒にとっては馴染みのない語句も多かったと思う。そのため、文学的な文章よりも抵抗感があったと想像できる。 小問オ、カは、図に関連した問題である。文章と図を適切に関連付けながら読み取る力がより必要だと感じる。授業を展開する上では、段落ごとのつながりを把握するために、接続語に注目させたり、図と照らし合わせながら正確に読み取らせるような学習活動が必要となる。また、接続詞の働き等を意識して読むことは、文章を理解する上で重要になるので、基本的な文法事項について知識を身につけたり、その効果を実感したりすることも大切である。 (平均正答率 49.5%)	
	(イ)	4	49	2	1 2 3	32 9 7		
	(ウ)	1	56	3	3 2 4	18 12 11		
	(エ)	3	67	3	2 1 4	18 9 3		
	(オ)	1	26	4	4 2 3	36 25 8		
	(キ)	I	高度経済成長期	62	30	表記の誤り 資本主義の発展 第二次世界大戦、など		4 2 1
		II	社会的な広がり	39	36	共感を生む行為 家族団欒の朝食、など		14 1
6	(ア)	ちいさき	75	9	ちいさい ちきさき、ゆびさき、など	11 1	大問6は、古典の読解である。小問ウは、会話文の識別問題であるが、正答率が極めて低い。その他の正答率は、小問アを除いていずれも40%未満と、内容の読み取りに関しては、未だに苦手意識が改善されずにいる。登場人物を把握することと、会話の部分是谁の発言なのかを適切に判断する力が求められる。教科書教材に限らず、国語便覧などを活用するなどして、関連作品等、多くの古典作品に触れることも大切である。その際には、声に出すことを習慣づけながら、古典に対する抵抗感をなくすように努めることが求められる。 (平均正答率 40.4%)	
	(イ)	3	38	6	4 1 2	26 22 7		
	(ウ)	また ～ べし	16	29	また～広し また～りぬ 棒振～べし	9 7 6		
	(エ)	2	38	8	1 3 4	24 20 10		
	(オ)	4	35	10	1 2 3	21 18 17		
7	模範解答参照		33	32	B C(無答以外)	3 32	「世論調査」の結果を読み取り、条件に合った文章を書く問題であった。条件に合った模範解答に近づいたものが約3割と少し難易度が高かったように思われる。また、無回答も約3割あった。「手書き文字」という、あまり普段考えることの少ないテーマだったことに戸惑った生徒が多くいたのではないかと考えられる。日頃から様々なことを題材として、まとまった文章を書くことを習慣づける必要がある。さらに、目的に応じて時間設定や字数等を含めた様々な条件に即して書くことができる力も育てていく必要がある。継続的に「書く」場面を設定し、苦手意識の払拭を図りたい。 (平均正答率 33.0%)	

IV 第3学年の結果と分析

1. 小問別の問題内容と結果正答率【国語 第3学年】

問題番号		趣旨		話・聞	書	読	言	問題の内容	出題のねらい	正答率(%)	無答率
大問	小問	知・技	思・判・表								
1	(ア)1	○	◎					①聞き取り	スピーチと質疑応答の内容を的確に聞き取ることができるか。	98	1
	(ア)2	○	◎						スピーチと質疑応答の内容を的確に聞き取ることができるか。	97	1
	(ア)3	○	◎						スピーチと質疑応答の内容を的確に聞き取ることができるか。	73	1
	(ア)4	○	◎						スピーチと質疑応答の内容を的確に聞き取ることができるか。	49	1
	(イ)		○	◎					スピーチの仕方により点をとらえることができるか。	84	1
	(ウ)		○	◎					話題と資料との関係をとらえて聞くことができるか。	93	1
2	(ア)1	○					◎	②漢字の読み	既習の漢字について、正しく音読みできるか。	65	7
	(ア)2	○					◎		既習の漢字について、正しく音読みできるか。	97	2
	(ア)3	○					◎		既習の漢字について、正しく音読みできるか。	62	8
	(ア)4	○					◎		既習の漢字について、正しく訓読みできるか。	87	6
	(ア)5	○					◎		既習の漢字について、正しく訓読みできるか。	97	0
	(イ)1	○					◎	③漢字の書き	既習の漢字について、正しく書くことができるか。	13	47
	(イ)2	○					◎		既習の漢字について、正しく書くことができるか。	33	28
	(イ)3	○					◎		既習の漢字について、正しく書くことができるか。	21	44
	(イ)4	○					◎		既習の漢字について、正しく書くことができるか。	87	6
	(イ)5	○					◎		既習の漢字について、正しく書くことができるか。	61	18
	(ウ)	○					◎	④言葉に関する知識	同訓異字が理解できるか。	89	0
	(エ)	○					◎		故事成語が理解できるか。	57	0
(オ)	○					◎	助動詞の識別ができるか。		93	0	
3	(ア)A	○					◎	⑤俳句の鑑賞	内容理解と的確な鑑賞ができるか。	89	0
	(ア)C	○					◎		内容理解と的確な鑑賞ができるか。	86	1
	(イ)	○					◎		内容理解と的確な鑑賞ができるか。	66	0
	(ウ)	○					◎		季語、季節を理解できるか。	69	1
	(エ)	○					◎		表現上の特色が理解できるか。	69	1
	(オ)	○					◎		表現上の特色が理解できるか。	73	1
4	(ア)	○					◎	⑥文学的な文章の読み取り	内容の理解、把握ができるか。	61	1
	(イ)	○					◎		文章中の語句の使い方について理解できるか。	78	1
	(ウ)	○					◎		内容の理解、把握ができるか。	46	1
	(エ)	○					◎		登場人物の心情を読み取ることができるか。	73	1
	(オ)	○					◎		内容の理解、把握ができるか。	88	1
	(カ)	○					◎		内容の理解、把握ができるか。	92	1
	(キ)	○					◎		文章の表現の特徴を把握できるか。	38	1
	(ク)	○					◎		文章を的確に読み取り、条件を満たして記述することができるか。	35	7
5	(ア)	○					◎	⑦論理的文章の読み取り	内容の理解・把握ができるか。	61	1
	(イ)	○					◎		内容から、図表を正確にとらえることができるか。	69	2
	(ウ)	○					◎		内容の理解・把握ができるか。	59	2
	(エ)	○					◎		内容の理解・把握ができるか。	48	2
	(オ)	○					◎		接続詞を理解し、文章相互の関係をとらえることができるか。	68	2
	(カ)	○					◎		文章を的確に読み取り、条件を満たして記述することができるか。	45	21
	(キ)	○					◎		内容の理解・把握ができるか。	64	5
	(ク)	○					◎		内容の理解・把握ができるか。	38	5
6	(ア)	○					◎	⑧古典の読解	地の文と会話文を識別できるか。	39	15
	(イ)	○					◎		歴史的かなづかいを正しく理解しているか。	93	7
	(ウ)	○					◎		内容の理解・把握ができるか。	49	5
	(エ)	○					◎		主語の把握ができるか。	58	10
	(オ)	○					◎		内容の理解・把握ができるか。	37	7

◎…主たる観点

平均正答率 (%)	
知識・技能	63.5
思考・判断・表現	69.2

2. 主な誤答と分析【国語 第3学年】

大問	小問	正答		正答率	無答率	主な誤答	(%)	授業改善への手だて	
1	(ア)	1	×	98	1	数字で答えている	1	大問1では、日本の問題点から中学生として自分ができることについてどのように考えているかを聞き取る問題であった。 小問アではスピーチや話し合いの内容を正確に聞き取る問題だったが、4の正答率が他よりも大幅に低い。スピーチとタイトルの不一致を聞き取る問題は、例年とは違う新しいパターンの問題であり、スピーチの大意を的確に理解することが求められる。 内容の理解や資料の活用については、概ね良好である。 今後も、情報を関連づけながら話し手の意図を捉えて聞くような指導を継続する必要がある。 (平均正答率 82.3%)	
		2	○	97	1	× 数字で答えている	1 1		
		3	×	73	1	○ 数字で答えている	25 1		
		4	○	49	1	× 数字で答えている	49 1		
	(イ)	2		84	1	4 1 カタカナで答えている	5 3 7		
	(ウ)	3		93	1	1 5	4 2		
2	(ア)	1	きち	65	7	がいち どくち そくじ など	5 4 19	大問2は言語の基礎的な知識に関する問題だが、小問アの既習漢字の読字については、昨年と比較して正答率が下がる結果となった。 「干潟」の「干」を「かん」や「ほし」と読んだり、「割く」の「割」を「わ」と読んだりするのは、漢字は知っていても、日常的に使っている言葉を漢字で認識していないことが見て取れる。授業においては、漢字の読みには複数の音訓があることを理解するための工夫が必要になってくる。 (平均正答率 81.6%)	
		2	しゅん	97	2	しゅう	1		
		3	ひがた	62	8	かんがた ほしがた かんがい など	10 3 17		
		4	さ(く)	87	6	わ(く) わり(く) われ(く) など	2 2 3		
		5	うった(える)	97	0	うっ(える) たくわ(える)	2 1		
	(イ)	1	顕著	13	47	謙○ ○著 権著 など	11 8 21		小問イは既習漢字についての問題である。例年と同様に、読字に比べ正答率が低い。 日頃から平仮名で済ませてしまうのではなく、実際に書いて使う習慣を身に付けさせることが重要である。また、短期間で覚えて、その後すぐに忘れてしまうのではなく、日常的に活用させることで定着を図る学習指導が必要である。 作文などを書く活動でも、実際に漢字を活用する機会として、丁寧な指導をすることが求められる。 (平均正答率 43.0%)
		2	模倣	33	28	模○ 模放 模法 など	18 7 14		
		3	催促	21	44	○促 最速 ○足 など	9 6 20		
		4	戻(す)	87	6	房(す) 元(す) など	4 3		
		5	誘(う)	61	18	表記の誤り 勸(う) 招(う) など	16 1 4		
	(ウ)	2		89	0	4 1 3	9 1 1		
	(エ)	3		57	0	4 2 1	22 12 9		
	(オ)	4		93	0	2 1 3	4 2 1		小問エの故事成語を問う問題の正答率が低い。ことわざなども含め、内容を婉曲に示したり端的に表したりする言葉を、あまり日常で使用しないことが原因と考えられる。授業において、幅広い言語活動を展開する中で言語を身に付けさせるとともに、日常生活においても、言葉への興味・関心を高めたり、様々な言葉を使い適切に表現させたりするような工夫が大切である。 (平均正答率 79.6%)

大問	小問	正答		正答率	無答率	主な誤答	(%)	授業改善への手だて
3	(ア)	A	1	89	0	2 3 4	7 4 0	大問3は俳句の鑑賞に関する問題で、生徒と教師の会話から俳句の内容や表現について読み取る力が問われる設問となった。 小問ウの季語を問う問題や小問エの表現技法を問う問題での正答が比較的伸びなかった。俳句を身近に捉えられる工夫が必要である。 今回は俳句の中での言葉の使い方に着目している。既存の意味ではなく、作品の中で新しい使い方をすることでよりイメージを鮮明なものにしていることを読み取らせている。字義的な理解を大切にしながらも、言葉の可能性を広げることへも目を向けた授業展開が求められる。 (平均正答率 75.3%)
		C	1	86	1	2 3 4	7 3 2	
	(イ)	肺	66	0	海 夜 雪 など	16 5 13		
	(ウ)	8	69	1	6 4 他	11 9 10		
	(エ)	7	69	1	8 4 他	10 9 11		
	(オ)	6	73	1	4 7 他	13 11 2		
4	(ア)	4	61	1	2 3 1	19 15 4	大問4は小説の一節から人物の心情や表現上の特徴などを読み取る力を問う設問であった。 小問エ、オ、カのように、主人公の心情を問う問題では比較的正答率が高くなる傾向にあった。しかし、一方で小問ウの状況を読み取る問題や小問キの表現上の特徴などの問題には苦戦している。 小問クは記述問題であったが、正答率が非常に低い。国語の授業の中で日頃から文章を書く時間を確保し、書くことに対する抵抗感をなくしていくように努めていくことが求められる。 主人公の心情を理解できる、共感できることは読み取れるが、状況や表現などの客観的な読み取りについては深まっていないことがうかがえる。文学的な文章の読解においては、状況説明や情景描写などについて、繰り返し丁寧に読み取る活動等を取り入れていくことが考えられる。 (平均正答率 63.8%)	
	(イ)	3	78	1	4 2 1	8 7 6		
	(ウ)	2	46	1	1 3 4	22 22 9		
	(エ)	4	73	1	1 3 2	10 9 7		
	(オ)	2	88	1	1 3 4	4 4 3		
	(カ)	2	92	1	3 1 4	3 2 2		
	(キ)	3	38	1	2 1 4	27 20 14		
	(ク)	役者の演技で、どんなにすばらしい衣装でもそれを魅せるのは役者の演技次第だという	35	7	B C(無答以外)	25 33		

大問	小問	正答	正答率	無答率	主な誤答	(%)	授業改善への手だて
5	(ア)	4	61	1	1 3 2	16 13 9	<p>大問5は論理的文章の読解力を問う問題であった。自然科学分野の文章と資料から内容を理解する必要がある。小問イは資料内のグラフの項目を文章から読み取って判断する問題だった。約7割の生徒がそれぞれの選択肢になっている言葉が何を指し示しているのか読み取れている。</p> <p>小問力の記述問題は、最終段落の内容を一文にまとめる力を問う問題である。大問4(ク)と同様に、記述問題に慣れていない生徒を減らし、積極的に解答する態度を養うことが課題となる。また、文学的な文章に比べると正答率が低い。これは、自然科学を題材としたこの文章が、生徒にとってなじみが薄く抵抗感があつたと考えられる。どんな分野でも抵抗なく読めるよう普段から社会科学や自然科学を含めた幅広い分野の文章を数多く読ませる指導をしていく必要がある。</p> <p>(平均正答率 56.5%)</p>
	(イ)	1	69	2	4 2 3	15 10 4	
	(ウ)	2	59	2	4 1 3	19 13 7	
	(エ)	3	48	2	4 2 1	25 21 4	
	(オ)	1	68	2	3 4 2	20 6 4	
	(カ)	植物プランクトンの量や魚の密度などの生物的要因と、湖内の水温の変化や太陽光の量などの非生物的要因が関わっている。	45	21	B C(無答以外)	18 16	
	(キ)	2	64	5	3 4 1	24 4 3	
	(ク)	4	38	5	1 3 2	25 23 9	
6	(ア)	下りた ～ たまへ	39	15	さのみ～りけれ なかな～りけれ 風早と～恐ろし など	8 8 30	<p>大問6は、古典の読解力を問う設問であった。法師がわざと忌み言葉を使ってからかっていることが読み取れるかどうかで理解の深まりに差が出たと思われる。</p> <p>小問アの会話文を識別する問題で正答率が低かった。地の文と会話文の区別は古文を読み解く上で重要であり、古典特有の会話文の特徴について、再度確認することが必要である。</p> <p>また小問オも正答率が低い。「忌み言葉」など古来からの日本語を広く学ぶ機会を継続的に取り入れ、古典の理解につなげることが求められる。</p> <p>(平均正答率 55.2%)</p>
	(イ)	きわめて	93	7			
	(ウ)	1	49	5	4 2 3	38 4 4	
	(エ)	船人	58	10	法師 御坊 風早 など	21 4 7	
	(オ)	3	37	7	1 2 4	22 20 14	

V 全体の考察と今後に向けて

1. 全体の考察

各学年とも昨年度とほぼ同様の問題量で、時間的にも概ね適切であったと思われる。また、例年と同様に、「知識・技能」と「思考・判断・表現」に分類し問題を出題した。

平均正答率を見ると、

	知識・技能	思考・判断・表現
1 学年	71.1%	60.5%
2 学年	52.2%	58.3%
3 学年	63.5%	69.2%

となっている。

各学年で比較してみると、2 学年の「知識・技能」に関する問題の正答率が低い結果となっているが、これは「知識・技能」と「思考・判断・表現」の枠組みを設けた平成 27 年度から続いている傾向である。逆に、1 学年の「知識・技能」は、どの年度においても正答率が高くなっている。

また、問題の内容ごとの平均正答率を比較してみると、

	聞き取り	漢字の読み	漢字の書き	言葉の知識	書写	韻文	文学的な文章	説明的な文章	古典	記述式問題
1 学年	79.0%	78.0%	53.4%	85.7%	76.5%	58.0%	70.8%	46.6%		
2 学年	69.0%	65.6%	24.2%	61.3%		74.0%	60.3%	49.5%	40.4%	33.0%
3 学年	82.3%	81.6%	43.0%	79.6%		75.3%	63.8%	56.5%	55.2%	

となっている。

この結果を見ると、「聞き取り」や「漢字の読み」、「言葉の知識」等、基礎・基本的な知識を問う問題については正答率が高く、定着が見られる。その一方で、課題として今後の指導で育成していくことが必要な力は、

- ① 既習の漢字について正しく書く力を身に付け、日常生活の中で正確に活用する力
- ② 説明的な文章を読み、構成や展開を理解した上で、内容を理解、把握する力
- ③ 日本の伝統的な言葉や文化に関心を持ち、登場人物や作者の思い等に思いを馳せながら古典の文章に親しむ力
- ④ 表等の資料を読み取った上で、自分の立場を明確にして、意見を述べる文章を書く力

等と思われる。

新学習指導要領において、国語科の目標は、

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。
- (2) 社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。
- (3) 言葉がもつ価値を認識するとともに、言語感覚を豊かにし、我が国の言語文化に関わり、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

とある。新学習指導要領に即して、国語科における言語活動のより一層の充実を図っていきたい。

2. 出題内容ごとの考察

(1) 聞き取り

全体的に正答率が高く、正確に情報を聞き取り、内容を把握する力は身に付いていると言える。ただし、2学年の小問アの1、行動計画の「順路」の正誤を判断する問題が正答率39%と低かった。また、3学年の小問アの4、スピーチとタイトルの不一致を聞き取る問題は正答率49%であった。これは、内容の一部ではなくスピーチの大意を捉える問題であったことが原因と考えられる。しかし、スピーチの大意や話し手の意図を理解することは重要なことなので、引き続き来年度以降も聞き取り問題の中での出題を継続したい。

(2) 言語事項

例年通り、既習の漢字からの出題とした上で、なるべく日常生活の中で用いる漢字、文意に沿って用いるべき漢字という要素を視野に入れている。

漢字の読字については、使用頻度の高い語句（1学年・遅延、貴重、2学年・濃淡、砕く、3学年・訴える、旬）は、正しく読む力の定着がみられた。しかし、日常生活の中であまり慣れ親しんでいない漢字（1学年・車窓、2学年・吐露、3学年・干潟）は、正答率が特に低かった。

一方、漢字の書字については、正答率は比較的 low、設問によっては正答率が特に低いもの（1学年・腹筋、洗剤、2学年・執念、訂正、拒否、赴く、潰れる、3学年・顕著、催促）がある。特に2学年は、全ての問題において正答率が非常に低かった。系統的・継続的な取組や漢字の特性を生かした学習の工夫、漢字を日常的に活用する態度の育成等、全学年において漢字指導の改善や充実に努めていくことが求められる。

言葉に関する知識を問う設問については、1学年は文法（文）、指示語、部首、2学年は文法（連体詞）、敬語、対義語、3学年は同音異義語・故事成語・文法（助動詞）を出題した。正答率が比較的 low かった設問は、2学年の文法（連体詞を選ぶ）問題（59%）および敬語の問題（55%）、3学年の故事成語の正しい意味を選ぶ問題（57%）である。

書写は1学年のみの出題で、楷書の正しい書き方と字形の整え方についての出題であった。平均正答率は比較的高かった。今後も、書写の授業で学習したことを日頃の活動につなげ、字形や全体のバランス、筆の使い方等を意識して書かせていきたい。

(3) 韻文（詩・短歌・俳句）

1学年は「詩」、2学年は「短歌」、3学年は「俳句」という形は従来どおりである。全学年とも、韻文とそれを鑑賞する者の会話から内容や表現について読み取る力が問われた。また、短歌の出題に関しては、今年度も作問委員が自作した短歌を題材とした。生徒の実態に合わせた作問をする上で有効なため、平成27年度からこの出題形式を継続している。

結果を見ると、2学年の短歌、3学年の俳句については、平均正答率が約75%と比較的良い。一方、1学年の詩に関しては、平均正答率が58%と比較的低い結果となった。また、1学年の表現上の特色や詩中の語句の使い方に関する設問、および2学年の表現技法を問う問題の正答率が低くなっている。これに関しては、昨年度も同じ傾向が見られたので、それぞれの言葉に着目し、表現の特徴や効果を理解するとともに、自分の表現につなげていくような学習を更に充実させていく必要がある。

(4) 文学的な文章

例年通り、同世代（中学生または、中学生に近い年齢の人物）が複数登場し、続きが読みたくなるような作品を選んだ。生徒にとって共感しやすい題材のため、今年度も全般的に正答率が高く、特に登場人物の心情について問う設問では正答率が高かった。正答率が低かったものとしては、1学年のカ（言葉を手がかりに内容を把握する問題）が正答率32%、2学年のア、オ（登場人物の心情を問うているが、登場人物がとても多い問題）が正答率44%、37%、3学年のウ（状況を読み取る問題）が46%、キ（表現上の特徴等の問題）が38%といったものが挙げられる。

また、1学年のキ、2学年のエ、3学年のク等、「読む力」を問う問題としての記述式問題の正答率が低い。また、無答率も他の問題に比べて依然高く、課題を残した。授業では、要旨をまとめたり内容を説明したりする等、自分が捉えたことを言葉で適切に表現するような学習活動を積み重ねていくことが必要である。

(5) 説明的な文章

全学年の正答率は概ね50%と低く、課題を残すものとなった。1学年では、「書く」という国語の核をなすテーマについての文章であったが、文章がやや難しかったこともあり、筆者の意見に対する根拠を見つける問題に苦戦していた。2学年は、時代背景が昭和から現代までの内容となっており、生徒にとって馴染みのない語句が多い文章であった。そのため、読み取りが難しかったと思われる。3学年では、自然科学分野の文章と資料から内容を理解する必要があった。

また、文学的な文章と比較すると、正答率が低い結果となっているが、これは例年の傾向となっている。ここには、言葉が難しく馴染みの薄いテーマが主題の説明的な文章に対する、生徒の苦手意識が見て取れる。様々なテーマの文章に触れる中で、子どもたちが文章を読むことの意義やよさを実感できるような授業、日常の取組を考えていきたい。また、今年度も記述式問題を出題したが、正答率は45%となり、昨年度と比較すると少しの改善が見られた。ただし、無答率もまだ高く(21%)、記述問題への対応に課題を残した。書くことを通して理解したことや考えたことをまとめていくような学習活動を積み重ねることが大切である。

(6) 古典

2学年、3学年ともに歴史的仮名遣いを問う問題の正答率は高かったが、その他の設問に関しては総じて正答率が低い結果となった。特に、会話文を識別する問題において、正答率が著しく低くなっている。地の文と会話文の区別は古文を読み解く上で重要であり、今後へ向けての課題が残った。

古典に触れる機会が3学年に比べると少ない2学年では、歴史的仮名遣いをのぞく設問がすべて正答率4割を切っており、古文に対しての苦手意識が見られる。資料集等を活用する等、様々な古文に触れ、親しむ機会を設定し、そのおもしろさや魅力を読み味わうような授業を工夫したい。また、3学年では文章の大意を捉える問題であったオの正答率が37%と低くなっている。文章に出てきた「忌み言葉」のような日本の伝統的な言葉や文化に関心をもって学ぶ機会を取り入れていくことも大切である。

(7) 記述式の問題

平成28年度より、2学年において「書く力」を問う問題としての記述式問題を出題しているが、正答率が33%と低く、無答率は32%と高かった。今年度も「国語に関する世論調査」からのデータを読み取り、条件に合った文章を書くものであったが、昨年度よりも正答率を大きく落とした。これは、昨年度の「携帯電話」をテーマにした問いと比べ、「手書き文字を大切にしたいと思うか」という問いが、生徒にとって日常生活の中で改めて考える機会が少ないテーマであったことが原因と考えられる。出題のテーマについては、今後も課題として検討を重ねたい。また、書く量と時間の問題、採点基準等に関しても、継続して検討していきたい。

3. 今後に向けて

(1) 話すこと・聞くこと

日常生活においては、様々な場面で「話すこと・聞くこと」の力を育んでいくことが必要である。国語の授業では、説明や紹介、話し合い等の言語活動を通して、目的や相手に応じてわかりやすく伝えられるよう内容を取捨選択したり、よりわかりやすい表現を選んだりする等、言葉への自覚を高めることができるような学習を工夫していくことが求められる。また、より充実した話し合い活動を行うためには、自分が発言するだけでなく、しっかりと相手の話に耳を傾けて、その意図を捉え、相手の伝えたいことを正確に理解することが大切である。そのためには話し合うことの意義やよさ、必要性を子どもたちが実感できるような課題や活動を工夫し、意欲的に話し合いに臨む態度を育成していくことも必要になる。話すことと聞くことの関連を密にした学習や取組の工夫を今後も大切にしていきたい。

(2) 書くこと

今年度も、各学年で出題した記述式問題はあくまでも「読む力」を問う問題であり、「書く力」を問う問題は、昨年同様2学年でのみ大問7で出題した。授業では、要旨をまとめたり内容を説明したりする等、自分が捉えたことを言葉で適切に表現するような学習活動、書くことを通して理解したことや考えたことをまとめていくような学習活動を、日常的に積み重ねていくことが大切である。また、目的や相手を意識した「書く」活動から表現スキルの習得・活用を図り、論理的な表現力を養えるような学習活動を行いたい。

書くことへの苦手意識を克服するには、比較的短い文章を多く書かせることで書くことに慣れさせることや、生徒の意識や状況にふさわしい題材を設定することで書く楽しさへつなげること、「書いてよかった」と感じられるような目的や活動の設定等が有効であると考えられる。

(3) 読むこと

文章を読む上では、まずは文章がどのような構造になっているか、どのような内容が書かれているかを把握することが中心となる。文学的な文章では、場面の展開や登場人物の設定や相互関係、心情の変化等を捉えること、説明的な文章では、中心的な部分と付加的な部分、事実と意見との関係、主張と例示との関係等を捉えることである。その上で、登場人物の言動の意味等について考えたり、文章と図表等を結び付けたりして内容を解釈すること、また、文章の構成や展開、表現の仕方や効果について考えたり評価したりすることになる。その際には、言葉に着目して、文章の構成や展開、表現の効果や仕方について考え、理解することができるよう指導したい。

さらに、自分の考えを確かなものにし、考えを広げたり深めたりするために、文章を読んで理解したことや考えたことを表現する言語活動や、伝え合いや話し合い等により共有する学習活動を行っていききたい。

韻文を読む際には、倒置、体言止め等の表現技法や韻文の形式から生まれる特徴等の基本的な知識も大切になる。より多くの作品に触れながら、そのよさや作者の意図・思いを感じとる豊かな感性を育んでいきたい。また、詩歌を読み、批評したり、考えたこと等を伝え合ったりする活動を通して、韻文に対する関心や理解を深めさせ、習得した知識を活用できる学習活動を展開していきたい。

(4) 言語に関する事項

情報化社会である現代において、自分の考えをしっかりともちながら他者との合意形成を図っていくためには、豊かな語彙力を身に付け、常に語感を磨く意識をもつことが求められる。語句や文法を暗記するだけではなく、学び得た知識を活用することが現代社会を生きていくためには必要である。

豊かな語彙力を育むには、語句や慣用句、故事成語等、様々な言葉やその意味を知ることに加え、その使い方を理解し、実際の生活の中で活用していくことが必要である。国語の授業においては、一つ一つの言葉を大切にしながら、言葉を使う中で語感を養うことが大切である。また、漢字の表意性や造語力といった特徴は、語彙の量と質の向上に生かされるものである。同音異義語や同訓異字の使い分け等、漢字の特性を理解する学習とともに、漢字を使うことの大切さを理解し、日常的に活用していく態度を育てていきたい。

(5) 古典（伝統的な言語文化）

古典においては、音読を通して古典特有のリズムを感じ、その世界に親しむことが重要である。読む上で必要な語法・文法を身に付けることが求められ、それらを身に付けるとともに、現代とは違う言葉の言い回しやリズムに慣れ親しむための音読や暗唱等の学習活動が大切になる。また、当時の人々の生活や環境を知ることによって、古典作品をより豊かに読むことができるようになる。他教科の既習事項等も生かしながら時代の背景や現代との文化の違いを意識する中で、今に受け継がれてきたものや、人の心情等、今と変わらないものがあることにも気付くような学習を大切にしたい。また、日本で長く親しまれてきた言葉や古典作品の一節を引用して使う等の学習活動も考えられる。

このような学習を積み重ねることで古典に対する抵抗感が薄れ、より多くの古典の作品に親しもうという姿勢を身に付けることができると考える。現代語訳や語注を手掛かりに文章を読み取り、古典に表れたものの見方や考え方をより深く理解することにつなげていきたい。

4. 授業改善に向けて

3「今後に向けて」で記述したことを念頭におき、子どもたちのより豊かな言葉の力を育成するために授業改善を図っていくことが大切である。その際、川崎市立中学校学習診断テストの振り返りを参考資料として、各学校の実状に合わせた工夫を行っていきたい。

各単元を通して子どもたちにどのような資質・能力を育むのかを明確にし、自ら課題を解決していく場を設定する。「主体的・対話的で深い学び」という授業改善の視点を常に意識しながら、子どもたちの学びの質の向上に努めたい。そのためには、まず、授業者が学習指導要領の趣旨や内容を理解し、学校教育目標で示されている目指す子どもの姿や生涯にわたって子どもたちの生活や生き方を支える言葉の力を考えながら、中学校3年間を見通した国語科としての学習計画を立てることが必要である。

子どもたちが直面していくであろう変化の激しい社会を生き抜くため、実りある言語活動の実践が求められてくる。基礎基本の定着を図り、子どもたちが確かな国語の力を付けていくことができる授業を工夫し、実践していきたい。